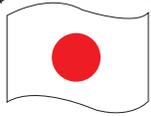


山梨県神社庁報

かみがね

祝祭日には国旗を掲げましょう



8月11日 山の日
 9月18日 敬老の日
 9月23日 秋分の日
 10月9日 体育の日

第178号（平成29年7月20日）



宮前八幡神社 「茅の輪くぐり」

本庁・総代会 ……………2～3	祭典を斎行して ……………14
神政連 ……………4	「大祓・茅の輪」 宮前八幡神社
神宮・教化委員会 ……………5	「甘酒祭」 大嶽山那賀都神社
不活動神社協賛金 ……………6	支部総会・祭典日程 ……………15
まんが古事記「くにうみ」 ……7～10	今後の予定 ……………16
外郭団体・支部 ……………11～13	

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

神社本庁五月定例評議員会報告

神社本庁評議員 古 屋 真 弘

神社本庁評議員会は平成二十九年五月二十五日二十六日の両日、神社本庁大講堂で開催され、本県からは根津庁長、中込総代会長、古屋本庁評議員の三名が出席した。

二十五日の一日目には、北白川統理様の挨拶文を田中総長が代読、少子高齢化、過疎化の中でも祭祀を厳修し、鎮守の杜を中心にした地域社会が発展するよう取り組んで欲しい旨の内容であった。次に、鷹司神宮大宮司、打田神道政治連盟会長から来賓としての挨拶があり、特に打田会長からは「憲法改正推進委員会」を新設した旨のお話があった。

次に中山評議員会議長が壇。異動報告の後、田中総長が庁務方針の概略を説明。中でも「本宗」については、神宮大麻減体のこと、参宮促進、遷宮奉賛の諸活動を推し進めていくことと、「包括団体業務」については、不活動宗教法人対策について積極的に取り組んでいく、「国民運動」については神道政治連盟と皇室護持はもとより、憲法改正など時局に関わる諸問題に対応し運動していく、「教化」については、本庁が策定した教化実践目標を實踐していくこと、過疎地神社対策として「過疎地域神社活性化推進員会」

を設置して取り組んでいくこと、「広報」については本庁刊行物の更なる充実を計ること、国際交流活動については外国人対応の資材を継続作成していくこと、「祭祀」については、例年通りの本庁幣供進、臨時御奉幣に関する事務を執り進めること、指導者養成、後進の育成に務めること、「教学」については教学研究大会の開催、神社の尊厳維持、祭祀の厳修かかる諸問題に取り組んでいく、「任用」については社会の変化に即応した人材の育成と神職としての資質の向上が求められている中、養成制度の充実と、確立をすべく取り組んでいく等々が話された。

続いて「平成二十九年年度一般会計歳入歳出予算案」「一般会計資金年度内一時繰替の件」が上程され、新役員が初めて提案する予算案であり、総額四十九億四千二百六十四万円、前年度に比較し、五百二十八万円の減額になっている事、負担金については現下の厳しい現状の中で、据え置く事が話された。この二議案は慎重に審議をはかるため、予算審議特別委員会に附託された。

二日目は、予算審議特別委員会委員長からの審査結果報告ののち、採決が行われ原案通り可

決された。また、各地から七つの議案追加が上程され、議案として取り上げられることを採択、提案者からそれぞれ説明があり、原案通り可決された。

その後、自由討論となり、山梨県の中込総代会長から「不活動神社対策について、神社界あげて一層の協力体制がとられるように取り組む」と題して意見発表がなされ、不活動神社対策が、責任役員、総代にとっても重大な関心事であり、山梨県では総代会が中心となり委員会を設立、県下の神社、総代に呼びかけ、不活動対策活動費を集め、助成金として使う方向で活動している旨の説明がなされた。評議員の多くから、不活動対策を、神職総代が同じ問題として取り組んでいる山梨県に対し、高い評価の拍手が送られた。また、福島県の丹治評議員より、「過疎化、少子高齢化に関わる神社実態調査を終えて」と題して意見発表。福島県内で前記調査を行ったところの、回収率の低さを指摘するとともに、神社での教化活動が四割と少ないことと言及。「不活動神社対策はつまるところ、神職の資質の向上抜きには語れない」と話した。

本庁事務局からは、「不活動神社対策特別推進事業」について、本年十一月で第一期目が終わるので、その結果を踏まえ、更に細かい対策を図っていきたいと述べられた。

全国神社総代会定例代議員会報告

山梨県神社総代会 会長 中 込 豊 秋

神社本庁規程表彰を受けて

山梨県神社総代会 東八代支部 会長 堀 内 文 藏

五月二十三日午後一時より神社本庁に於いて始まる。全国より百一人参集する。所定の式次第に依り取り行われた。荒巻副会長が会長挨拶を代読、一同会が来年設立六十周年を迎えることを挙げ、改めてこれまで先人が築いてこられた功績を顧みて、その高邁な精神を次世代へ継承して参りたい」と決意を述べた。更に「少子高齢化、過疎化については、神社を奉護する私共総代にとっても大きな課題であり、神社を中心とした共同体意識を再構築することが、ひいては地域社会の活性化や再生にも繋がる。本庁をはじめ諸団体と連携して取り組んで参ろう」と更なる協力を呼びかけた。

催を好機として、国旗掲揚や国歌斉唱の推進に継続して取り組み、国家・神社の祭祀や国柄に関わる国民の祝日の意義啓発に努めることが盛り込まれた。

九月六日に埼玉県で開催予定の第五十三回全国神社総代会大会について、瀬尾芳也教化部長から説明と報告があり、主管する埼玉県神社総代会の大野光政会長から、多くの皆さま方のご参集を願う」との挨拶があり、その後伊勢神宮崇敬会の藤本太事務局長が挨拶した。

二十四日神社本庁の表彰式には、池田厚子神社本庁総裁御臨席のもと東京港区の明治記念館で開催され、本県より堀内文藏東八代支部総代会長をはじめ四名が受賞の栄に浴され、同日東郷神社記念館において祝宴が催された。

平成二十九年実地目標として国旗、国歌及び祝日の意義啓発に努める。日本国憲法の改正を通じて、我が国柄と次世代への継承を考える。適正な神社運営を図り、神社の奉護に努める。他三項目、計六項目が掲げられた。国旗等に関しては、東京オリ

二十五日午後、各県総代会長三十八名は根津神社（社・寺併合）参拝後、葛飾柴又の寅さん記念館を見学、料亭「加賀」にて、斯界の諸問題について、多く語られ大変有意義な一夜を過ごして参りました。二十六日委員会報告、追加議案等総て承認され、最後に自由討論、二名の発表があり、終了しました。

ンピック・パラリンピックの開

平成二十九年五月二十四日神社本庁表彰式が明治記念館で池田厚子総裁御臨席の下、厳粛に取り行われました。私も永年の斯界への功績が評価され、表彰の栄に浴し感激の至りであります。関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。式典経過は表彰式前に受彰者全員の記念撮影があり、午後一時三十分池田厚子総裁の御入場で表彰式が始まりました。開式の辞、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和と続き、池田厚子総裁の式辞がありました。受彰者に、この度の受彰を心からお祝致します。又永年の神社界への神明奉仕への深い感謝の心と労いのお言葉の頂き心に響きました。特別功績表彰は大阪天満宮宮司寺井種伯様の鳩杖贈呈から功績表彰と続き私達総代役員九十四名は、第三条第三号規程表彰状と徽章銀盃を池田厚子総裁より賜りました。表彰状授与後来賓祝辞は二名鷹司神宮大宮司、全国総代会副会長風間様が行い、受彰者を代表し謝辞を大阪天満宮寺井種伯宮司が致しました。閉式の

辞で厳粛な式典が終わりました。本日の本庁表彰式には、山梨県神社庁長根津様、県総代会会長中込様始め、志村支部長様、神社庁役員の宮司様方、又支部総代会長様、多数が私達受彰者にお祝の言葉を頂きました。式典後には、東郷神社に正式参拝し神社会館内で、受彰祝賀会を催して頂きました。私と致しましては、今日一日は生涯忘れる事のない体験であり、この受彰を深く心に受け止め尚一層山梨県神社庁発展の為努力していく所存であります。



神道政治連盟中央委員会報告

神道連山梨県本部 本部長 渡 邊 平 一 郎

去る六月十三日、十四日の両日にかけて、役員会、本部長会・事務局長連絡会、神道連国会議員懇談会総会と都道府県本部との合同懇談会、そして中央委員会が開催された。

六月の十四日の中央委員会は、午前十時から神社本庁大講堂に於て、開会儀礼で始まり、

打田会長が昨年八月の天皇陛下の譲位に関する「おことば」御発表から先の通常国会で成立した「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」の成立までの経緯と女性宮家創設に係る付帯決議が附せられた事及びその説明、又「これからの諸祭儀が伝統と不易流行を違えない形で執行されるよう努める」旨を述べた。

憲法改正については五月三日の安倍首相の発言メッセージの中で、九条の二項目は残しつつ自衛隊を明記する旨の発言を踏まえつつ、「神政連に於ては、八項目を中心に掲げ、改正への趣旨説明と広く各小選挙区単位にて運動し伝え、展開してゆくので、中央委員にも中心になって運動をお願いしたい」との挨拶であった。

続いて、来賓として田中恆清

神社本庁総長が挨拶され「神政連の抱える諸問題、神政連綱領を實踐する時が来た。神社本庁と車の両輪のごとく地に足をつけて実践しなければならぬ。神社界の発展は、国家の発展につながる。皇室の尊厳護持を掲げる我々の今が最も大切な時である」と訴えられた。

次に自由民主党を代表して高村正彦副総裁が、神政連の活動及び選挙への協力に感謝の意を述べると共に、特例法の成立の報告と憲法改正の道筋、日本らしい日本にする様な憲法改正実現に協力を求められた。

最後に、城内実神政連国会議員懇談会事務局長代理が挨拶し、特例法の附帯決議に「女性宮家」の文言が含まれたことに触れ、英国の皇室の例え話を交え党内の議論を深めて対応に努力する旨を述べた。

来賓の祝辞が終って石川正人議長のもと議事に入った。平成二十八年年度の事業報告、二十七年年度の歳入歳出決算、二十九年年度活動方針、事業計画及び予算案がすべて原案通り承認された後、神殿拝礼して平成二十九年中央委員会が閉会した。

神政連規程表彰を受けて

神道連山梨県本部 顧問・代議員 田 村 弘 正

今度はずいぶん、神政連より規程表彰の栄を賜り、六月十四日中央委員会の開会式に引き続き表彰式が執り行われました。本連盟に功績のあった県支部、又昨年行われた参議院選に実績をあげた県支部と合せて個人表彰も行われ、二十数名が出席しました。本県からは田邊芳弘代議員と私が受賞いたしました。私は早朝高速バスで上京。久しぶりに神社本庁に入りました。十数年前中央委員として二、三回出席した時と同じ、全国の神社を統括している庁舎として、厳粛の中に活力のある誇り高い空気がなつかしく感じられました。

ことでも過疎対策が必要である等のお話でした。御来賓の国会議員の高村正彦先生、城内実先生大変お忙しい中ご出席を賜り、国体をふまえて神道政治連盟への激励と期待をこめてのご祝辞をいただきました。表彰式に移り、各部門の代表に表彰状が授与されました。私の微々たる活動に対し身にあまる受賞であり、大変うれしく思うと同時に、今後も尚一層の努力をいたさなければと思いを新たにいたしました。今度の受賞に対しましてご配慮いただきましたことに対し厚くお礼申し上げます。報告いたします。

開会式は神殿拝礼、国歌斉唱に続いて打田文博会会長挨拶があり、天皇退位につき特別法制定が可決されたこと、その中で女性宮家の創設の検討が盛り込まれたことは残念ということ、自主憲法の改正は喫緊の問題である等が主な内容でした。田中総長様からもご挨拶をいただき、本連盟が取り組んでいる課題のすべてを解決することが、国民の最も大切な幸につながる



平成二十九年 度神宮参与同評議員会 伊勢神宮崇敬会代議員会報告

神宮評議員 塚川 宣行

去る六月九日「神宮参与同評議員会、伊勢神宮崇敬会代議員会」が神宮会館大講堂において開催され、全国から五百四十五名が出席した。本県からは根津庁長以下十七名が参加した。

前日早朝よりバスにて神宮に向かい、外宮・内宮で御垣内参拝をして、午後六時より神宮会館において開催された懇親会に参加した。鷹司尚武神宮大宮司の挨拶で始まり、四百七十名あまりが懇親を深めた。その後宿にて、山梨県神社庁と群馬県神社庁合同の二次会を催し、お互いに語らい親睦を深めた。

翌日、内宮特別参拝・太々神楽奉奏をすませ神宮会館に向かった。会議は午前十一時より大講堂において開催され、国歌斉唱ののち主催者を代表して鷹司尚武神宮大宮司と松下正幸伊勢神宮崇敬会会長がそれぞれ挨拶した。大宮司は先人たちの神宮奉賛の念が神宮の歴史を支えてきたと説明し、来るべき次期遷宮が充実したものとなるよう尽力すると述べ、今後も祭祀の厳修を第一に神明奉仕に精励すると語った。続いて功労者顕彰が

おこなわれ、月夜見宮奉賛会の橋本和久会長に顕彰状と記念品が贈呈された。その後、来賓を代表して本社本庁統理(代理・田中恆清総長)と鈴木健一伊勢市長がそれぞれ祝辞を述べた。

議事に入り、はじめに亀田幸弘神宮少宮司が神宮の現況について概要を説明、引き続き神宮司庁の各部長らが詳細を報告した。頒布部は、神宮大麻の頒布数が平成二十二年以降七年連続で減体していることに触れつつ、厳しい情勢下での各位の尽力に謝意を表した。文化部は「せんぐう館」が今年開館五周年を迎え、五月には入館者数が二百万人を突破したことを説明した。総務部は昨年の両宮の参拝者数が八百七十三万九千二百一十一人で前年比約三十六万人の増加と報告した。

次に伊勢神宮崇敬会より事業報告と平成二十九年 度運営方針及び事業計画等の説明があり、閉会となった。この厳しい世情のなかにあつて神宮崇敬の輪を更に広げられるように、大いなる使命感をもって帰路についた。

禊 錬 成 研 修 会 に 参 加 して

武田神社 権禰宜 滝口 純一

禊錬成研修会は、去る七月十四日に北杜市須玉町にある「みずがき山リーゼンヒュッテ」に於いて十三名の受講生参加のもと開催されました。私は今回で二回目の参加でした。

午前十時より開講式、山梨県神社庁佐々木研修所所長挨拶、中村教化委員長挨拶の後、午前十時半から佐々木研修所所長による講義「鎮魂」と題し「石上神宮鎮魂(魂振)行事次第」の解説に基づき一連の禊作法や所作について熱心に講義して頂きました。正午から昼食をいただきました。午後一時からの中村教化委員長による講義「禊錬成」では、禊行法における振魂、祓詞、鳥船、雄健、雄叫、の一連の作法をご指導頂きました。非常に明確な実技指導で魂の高揚を実感し、また乙黒教化委員会研修部副部長と竹埜神道青年会副会長の実技は、分かり易く丁寧な指導で、最後には練習場で参加者全員が一つにまとまった雰囲気になりました。その後、禊場に

移動し、みずがき山の冷たい清流の中で禊を行いました。心身共に洗い流され心が清らかになりました。閉講式終了後には、窓を眺めると全員的心をあらわしたかのように、禊の雨が降っていました。

神職として、この貴重な経験を日々の神明奉仕に活かしていきたいです。最後に開催にあたりご尽力を頂いた関係者に感謝を述べたいと思います。



訂正

一七七号にて勝沼町 小佐手 伏木神社 鶴田智也様のお名前に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

不活動神社対策協賛金

平成二十九年三月一日から平成二十九年六月三十日までに一一名の皆様より四拾六萬壹千円の御協賛を戴きました。厚く御礼申し上げます。

甲府支部

御協賛者 六名

御協賛金 貳萬五千元也

- 御芳名 甲府市 武田 武田神社 千野利雄
- 甲府市 武田 武田神社 長田眞
- 甲府市 武田 武田神社 吉良信一
- 甲府市 武田 武田神社 教野三郎
- 甲府市 武田 武田神社 山本等
- 甲府市 愛宕町 愛宕神社 総代会

東山梨支部

御協賛者 二名

御協賛金 七萬壹千元也

御芳名 勝沼町 小佐手 伏木神社 鶴田智也

- 勝沼町 小佐手 伏木神社 駒田啓一
- 勝沼町 小佐手 伏木神社 鶴田昭光
- 勝沼町 小佐手 伏木神社 阪本芳興
- 勝沼町 小佐手 伏木神社 三枝勝男
- 勝沼町 小佐手 伏木神社 辻実
- 勝沼町 綿塚 大石神社 大木勝紀
- 山梨市 三ヶ所 諏訪神社 仙洞田茂美
- 塩山 三日市場 白鬚神社 窪田道忠

- 山梨市 三ヶ所 諏訪神社 関口登則
- 山梨市 三ヶ所 諏訪神社 奥山正光
- 山梨市 三ヶ所 諏訪神社 雨宮盛也
- 山梨市 三ヶ所 諏訪神社 町田幹人
- 山梨市 三ヶ所 諏訪神社 中村寿美子
- 山梨市 三ヶ所 諏訪神社 村田保
- 山梨市 三ヶ所 諏訪神社 有賀充
- 山梨市 三ヶ所 諏訪神社 高橋弘
- 山梨市 北 大井保達八幡神社 柳沢一好
- 勝沼町 菱山 古宮太神社 鈴木正史
- 三富 上釜口 大嶽山那賀郡神社 日原盛幸
- 三富 上釜口 大嶽山那賀郡神社 日原静子
- 三富 上釜口 大嶽山那賀郡神社 日原おる

東八代支部

御協賛者 二名

御協賛金 壹萬貳千元也

- 御芳名 八代町 岡 八幡神社 石倉初夫
- 一宮町 末木 天神社

峡中支部

御協賛者 五名

御協賛金 壹萬五千元也

- 御芳名 南アルプス市 百々 諏訪神社 小松昭
- 南アルプス市 百々 諏訪神社 秋山善勝
- 南アルプス市 百々 諏訪神社 清水知忠
- 南アルプス市 百々 諏訪神社 矢崎勝廣
- 南アルプス市 百々 諏訪神社 浅野秀雄

峡北支部

御協賛者 一名

御協賛金 参千円也

- 御芳名 北杜市 武川町 三富貴神社 小野政高

南都留支部

御協賛者 七六名

御協賛金 参拾参萬五千元也

- 御芳名 富士吉田市 上吉田 根神社
- 富士吉田市 松山 松尾神社
- 富士吉田市 松山 穂見神社
- 富士河口湖町 大嵐 天神社
- 鳴沢村 春日神社
- 鳴沢村 魔玉天神社
- 富士吉田市 上吉田 富士山小御嶽神社
- 富士吉田市 新屋 湊神社 山神社
- 都留市 十日市場 小篠神社 宮下富枝
- 都留市 田野倉 三嶋神社 小林喜和
- 都留市 田野倉 三嶋神社 平井孝
- 都留市 田野倉 三嶋神社 梶原多雄
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 外川祐喜
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 中村司
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 梶原至
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 長山高明
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 小佐野晋
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 渡辺勝視
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 西村良光
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 渡辺公則
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 外川徳男
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 小林敬行
- 富士河口湖町 船津 八王子神社 筒口神社 外川誠
- 富士河口湖町 大石 浅間日月神社総代一同
- 富士河口湖町 大石 鷗嶋神社 総代一同
- 富士河口湖町 船津 無名室浅間神社総代一同
- 富士吉田市 新倉 富士浅間神社 堀内泰春
- 富士吉田市 新倉 富士浅間神社 八木清暢
- 富士吉田市 新倉 富士浅間神社 渡辺菊雄
- 富士吉田市 新倉 富士浅間神社 渡辺和廣
- 富士吉田市 新倉 富士浅間神社 三浦親太郎
- 富士吉田市 新倉 富士浅間神社 渡辺貴芳
- 富士吉田市 大見 小室浅間神社 宮下章章
- 富士吉田市 大見 小室浅間神社 桑原昌夫
- 富士吉田市 大見 小室浅間神社 船久保洋勝
- 富士吉田市 大見 小室浅間神社 桑原肇
- 西桂町 下暮地 浅間諏訪神社 氏子総代一同
- 富士河口湖町 浅川 中村陽一
- 富士河口湖町 小立乳ヶ崎 金山神社 小林充
- 富士河口湖町 小立乳ヶ崎 金山神社 渡辺新一
- 富士河口湖町 小立 諏訪神社 総代一同
- 富士河口湖町 長浜 貴船神社氏子総代 宮世話一同
- 都留市 田野倉 御嶽天神社
- 上野原市 秋山 諏訪神社
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 神樂利行
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 鈴木正三
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 坂田仁
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 三浦政秀
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 梅谷建治
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 天野幸三
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 宮下昭
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 山口剛生
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 渡邊淳美
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 高村孝
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 渡辺和行
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 渡辺芳基
- 富士吉田市 上吉田 北口本宮富士浅間神社 大森好正
- 富士河口湖町 浅川 三交通神社 小河原彦一
- 富士河口湖町 河口 河口浅間神社 高橋大和
- 富士河口湖町 河口 河口浅間神社 外川和弘
- 富士河口湖町 河口 河口浅間神社 外川和康
- 富士河口湖町 河口 河口浅間神社 中村義朗
- 富士河口湖町 河口 河口浅間神社 天野重春
- 富士吉田市 上暮地 神明社 梶原甚蔵
- 都留市 四日市場 生出神社
- 都留市 小形山 稲村神社
- 都留市 深田 御嶽神社 勝俣秀文
- 都留市 深田 御嶽神社 伏見幸雄
- 都留市 深田 御嶽神社 住倉利則

まんが古事記 くにうみ (第四話)



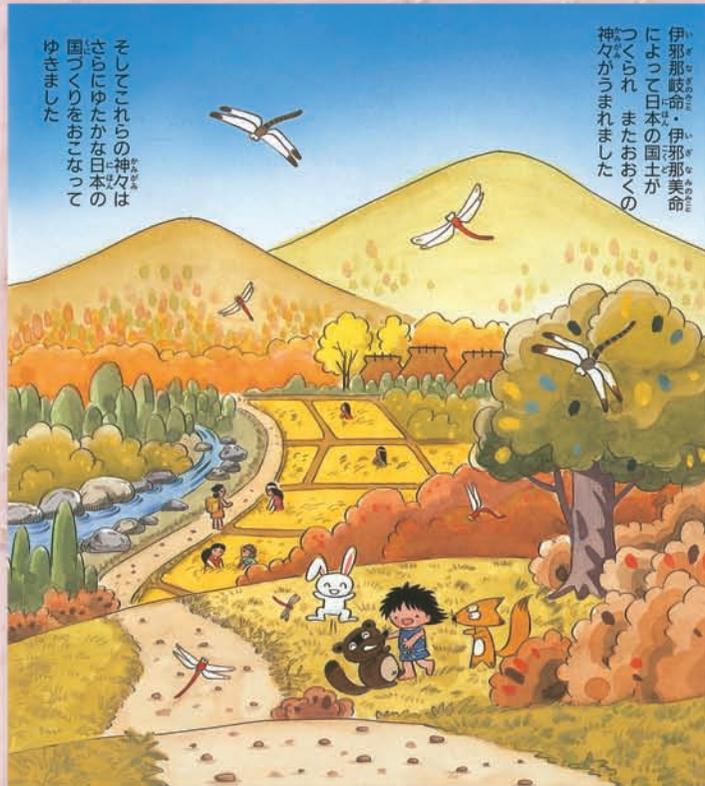
お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。



「全国神社保育団体連合会」提供
問い合わせ 東京都渋谷区代々木一―一―二
神社本庁内
電話 ○三―三三三九―八〇―一
一冊 一、二〇円

あらすじ

日本の国が誕生した頃、まだ国土は海の上をユラユラとただよっていました。それを見られた高天原の神さま方は、日本の国土をりつばなものにしようとして、伊弉那岐命・伊弉那美命の二人の神さまに天の沼矛という矛を授け、国造りをお命じにされました。二人の神さまは早速、その矛で海水をかきまわし、一つの島を造ると、そこに天降つて多くの島国、神さまたちを生みましました。しかし火の神を生むとき、伊弉那美命は大やけどをしてしまい、亡くなつてしまいました。悲しみにくれた伊弉那岐命は、伊弉那美命に会うために黄泉国へ向うのでした。





今から千三百年ほど以前に取り纏められた『古事記』・『日本書紀』は、日本でもっとも古い書物です。本シリーズは『古事記』のお話をもとに作成致しましたが、この『古事記』は天武天皇の命を受けて稗田阿礼が暗誦した神代からの伝承を元明天皇の御代、和銅五年（七一二）に太安万侶が三巻に書き纏めたものです。そのなかでも上巻が「神代巻」とも呼ばれ、ここには日本の神話伝承が記載されています。

本書「くにうみ」は伊邪那岐・伊邪那美命の国造り神話をもとにしました。それによると天地の始めには、日本の国土はまだ稚く、水に浮いた油のようにフワフワと海面を漂っており、ちようどクラゲが海面を泳いでいるようであったといわれます。そうしたときに高天原に天御中主神・産巢日神などの神々が出現し、その七代目の神が伊邪那岐・伊邪那美命で、これらの神々を特に神世七代と称しています。両神は天神の御命令により日本の

国土を造りあげ、また多くの神々を出生しました。日本の国はこうした多くの神々の力によって形成され、今日の基礎が打ち立てられたことをこの神話は語り伝えていきます。

私たちにとって神話は、単なる物語・伝承ではなく、日本人の祖先以来受け継がれてきた心との出会いの場ともいえます。こうした心を知ることによって、また私たちの世界観・人生観がより豊かに形成されてくるものといえます。特に幼い頃に語り聞かされた神話に、何か知れない感銘や躍動を覚えたものでした。こうした感銘はまた、大人になっても忘れさられるものではなく、むしろ将来に亘ってイメージを育み、情操を培う基礎ともなってゆきます。私たち一人ひとりがむしろ語り部となって、子供たちと神話との出会いを大切に見守ってゆきたいものです。本シリーズがそうした子供たちと神話的世界との橋渡しともなれば幸いです。



※次号より「いなばのしろうさぎ」を掲載いたします。



あらすじ

大國主命おおくにぬしのみことは沢山の兄弟あがたがいらつしやいました。命いのちはある時、お兄さんたちのお供ともで旅たびに出ました。すると、海岸かいがんで赤裸あかはだになつたうさぎが泣いていました。そこで、命いのちがやさしく声をおかけになると、うさぎはその訳わけを話しました。

そのうさぎは、海うみの向こう側むこうがはに住すんでいましたが、いつもこちら側こちらがはに来てみたくおもってました。でも海うみは広くてとてもうさぎには泳およいで渡わたることが出来できません。そこでうさぎは一計いけいを案あんじ、海うみに住すむワニこゑに声こゑをかけるのでした。

※昔むかしはサメ類いりをワニと呼んでいました。

第二十三回神青協一都七県協議会総会報告

山梨県神道青年会事業部長

小佐野 正 宗

平成二十九年六月五日、ホテルラス・ザ・ガーデン水戸に於いて第二十三回神青協一都七県協議会総会が茨城県神道青年会の主管にて開催された。当日は茨城県神社庁庁長を始め神社庁役員の先生方、神道青年全国協議会佐野会長以下理事各位、神青協一都七県協議会顧問の先輩方、そして神青協一都七県協議会の仲間総勢百五十名の参加を得て盛大に執り行われた。午後一時三十分の開会、神宮遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、会長挨拶、主管県代表挨拶、ご来賓の紹介、祝辞と続きこの度退任された東京地区水野顧問に感謝状が贈呈された。午後二時より議事に入り、前年度事業監査報告、次年度役員員の承認がされ、会長に東京都神道青年会大野会長、副会長に不肖私めが選出された。続いて事業計画案の承認、各県の活動報告があり、総会議決文が朗

読され次の三点が活動方針として承認された。

一、各単位会の連携を強固なものとするべく、意識と情報の共有を図る。

一、参宮推進や家庭祭祀の在り方などの基本に立ち返り、神宮啓発活動を推進する。

一、現下の憂慮すべき諸問題に対し積極果敢に行動し、斯界の興隆に資する活動を展開する。

その後次年度当番県挨拶、神道青年の歌・美はしき山河の斉唱、聖寿万歳と続き、総会はめでたく終了した。引き続き午後



三時三十分より「光園公から慶喜公へ」継承された水戸の心」と題して、植草学園短期大学名誉教授、水戸史学会理事・事務局長、但野正弘先生のご講演があり、水戸の心の育みと現代まで継承されてきた水戸学の本質についてお話くださった。

講演会が終わり午後五時三十分からは同ホテル内で会場を移して懇親会が行われ、午後八時をもって無事全日程が終了した。

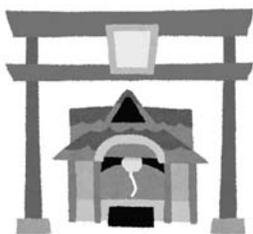
山梨県氏子青年協議会報告

事務局長 根津 佳明

去る平成二十九年六月十八日に稲積神社参集殿において『平成二十九年山梨県氏子青年協議会総会』が、根津泰昇山梨県神社庁庁長を始め四名の来賓の方々の出席を戴く中で行われました。議事では、平成二十八年度会務・会計報告、平成二十九年年度事業案・予算案の承認等、慎重審議滞りなく納めることが出来ましたことをご報告致します。

さて、当会は山梨県氏子青年協議会と称し、構成単位会は

「北口本宮富士浅間神社氏子青年会」「稲積神社崇敬青年会」と二単位会で組織されております。活動内容として「清く明るく美しい郷土の建設を志す県下神社青年会の結合と協調をはかると共に、各会の充実発展に資する事」を目的としております。その為、「単位会神社への例祭参列」「全国氏子青年協議会大会への参加」「山梨県神社庁関係諸行事への協力」「災害支援活動」「親睦事業の開催」等の活動を展開しております。



山梨県女子神職会報告 祭式研修会に参加して

事務局 上 條 節 子

山梨県女子神職会の活動で重要な研修のひとつである『祭式研修会』が六月十四日に神社庁にて神社庁祭式講師の桃井一祝先生のご指導のもと十名の参加により行われました。

基本の作法からはじまり、大祭式の作法まで終日研修させて頂きました。

桃井先生の豊富なご経験と多彩な知識、そして話術により祭式はもとより様々なお話をお伺いすることもでき大変有意義な研修となりました。

日々白衣を着ける日常とは離れた生活を致しております私ですが、このような機会を与えられ大切な研修の一日を過ごさせて頂き有り難く思っております。

私がこの研修で学んだことは、基本の作法をきちんと体で覚えることと、祝詞や玉串後取また献饌の作法は受け手のことも考え配慮ある作法が要されるということとです。

先人の言葉に「こころはかたを求め、かたちはこころを進め



る。」という教えがあるそうです。

「信心のこころを祭祀といふかたちで表現し、明るく清らかな信心の真心と、流麗で美しい作法が要求される。」新神社祭式行事作法教本の中の沼部先生のお言葉です。私もこの機会になぜ祭式の作法があるのかということを再度心に留め置き今後に生かしたいと存じます。

まだまだ基本の作法もおぼつかない私ですが、これからも桃井先生や諸先輩方のご指導のもと『こころとかたち』を基とし祭祀に勤しめるよう努めて参りたいと存じます。

当会は来年設立三十周年を迎えます。この度のまた次回の祭

式研修がその奉告祭に向けての習礼となり、当日は会員が一丸となつて『流麗にして優雅なる祭典』のご奉仕が出来ます様取り組んで参りたいと存じます。

山梨県敬神婦人連合会報告

会長 乙 黒 夏 恵

平成二十八年六月九日神社庁会議室に於いて総会及び全国敬神婦人大会兵庫大会の件について役員会を開催。又神社庁設立七十周年の記念事業について、当会としてどのように協力していくか話し合いが行われました。

七月二十二日神社庁会議室に於いて総会を開催。会員約四十名の出席のもと平成二十七年年度の決算報告事業報告及び監査報告が行われ、その後平成二十八年年度予算案事業案が満場一致で可決されました。

その後日本会議の女性組織である日本女性の会事務局長荒木築子氏の記念講演を拝聴しました。

八月六日、七日には神社庁設立七十周年記念事業として「神社を知ろう」が甲府駅北口よ

つちやばれ広場にて開催され、当会も協賛事業として餅つきを行い参加者に振舞いました。

九月六日第六十七回敬神婦人大会兵庫大会が神戸ポートピアホールにて開催。津々浦々から会員約一五〇〇人が集い、北白川慶子会長の式辞に始まり式次第修了後、服飾評論家市田ひろみ氏による「旅で出会った人々」の記念講演と、宮本慶子とアンサンブルローザによるマリンパ演奏がありました。又生田神社、伊弉諾神宮を正式参拝。会員一同家庭人として神社とのかかわりをいっそう強く持ち、これからの敬神崇祖の心を再確認いたしました。

今年隣県の静岡にて敬神婦人大会が開催される予定。

是非多くの会員の皆様に参加していただきたく思っております。又今年度は以前からの懸案であった国旗小旗の作製を各単位会ごとにお願ひし五〇〇本を神社庁を通して日本国旗協会へお送り致しました。

以上が平成二十八年度の活動報告です。

私達女性ならではの活動をさらに進めて行き会員数を増やすのが当面の目標であります。

山梨県神職保護司会

長崎で総会を開催

事 務 長 石 原 鎮

第二十八回総会が六月五日、長崎県雲仙市の旅館で開催され、全国の神職保護司六十三人（うち山梨六名）が出席した。

冒頭、今年五月に帰幽した上村了副会長に黙祷を捧げた後、開会儀礼に続いて、全国神職保護司会福田勉会長と長崎県の月川徹会長が式辞を述べた。このなかで経済の急激な変化で人と人とのつながりが希薄になり、犯罪の凶悪化低年齢化が進んでいる。今こそ我々神職保護司が「鎮守の社は非行防止の心のとりで」の標語のもと、古くから祖先の築き上げてきた、神を敬い自然を尊ぶ心を伝え、再犯防



止のため貢献してゆく旨を訴えた。その後、来賓の神社本庁総長（代理・瀬尾芳也教化広報部長）が祝辞を述べ、公職選挙法一部改正により満十八歳以上が選挙権を得たことに伴い、少年法の適用年齢を十八歳未満に引き下げる議論が進んでいるなどに触

支部だより

峡南支部

支部長 市川 行 治

三年に一度の峡南支部神職研修を、六月八日九日の一泊二日で行いました。

今回は、研修参加者の希望により、熊野三山の参拝旅行を計画しました。参加者は八名、移動時間は七時間半掛かり、朝五時に出発して熊野本宮大社へ一時半着、途中参加の一名と合流して、一時半から正式参拝、御社殿の説明や境内の案内を頂き二時四十五分に退出、続いて熊野速玉大社に移動、約四十分で速玉大社に到着し、正式参拝を終え境内の見学、お社の由緒・御祭神の説明を受け、那智

れ、「再犯防止のために保護司の貢献度が益々高まっていく」と期待を寄せた。

その後、金田勝年法務大臣等からの祝電披露があった。審議は原案通り承認され次回総会を北海道で開催することを確認した。なお当日は総会に先立ち、

勝浦の宿に向かいました。

長旅ということもあり、ツインの部屋をシングルで使い、ゆつくりと休めるよう配慮しました。

夜は、居酒屋『吾作』で地元の海鮮料理を頂きました。紀州の梅焼酎や地ビール、地酒に舌鼓を打ちつつ夜の更けるのも忘れて懇親を深めました。

翌日は、予定を早めて八時に宿を出発、那智の滝の見学『飛瀧神社』の参拝に向かい、早朝だった為か他の観光客の姿もななくゆつくりと参拝することができました。

九時に熊野那智大社を正式参拝し、十時に退出、十一時には日本最古の神社といわれる『花の窟（いわや）神社』に参拝し帰路につきました。

往復の車中は、御神酒を頂きながら、不活動神社対策や峡南

「長崎くんち」で名高い諏訪神社に正式参拝。翌六日には大浦天主堂、グラバー園など長崎の名所を巡った。散策の殆んどは坂道で容易ではなかったが、改めて鎖国時代と幕末に、当地の役割の深さの見識を持った次第である。

支部の昔話、地域の話題等尽きることなく大いに情報交換や意見交換を行い。有意義な研修旅行となりました。

ご参加頂いた支部員並びにご協力頂いた神社庁職員の皆様にご心からお礼申し上げ、報告とさせていただきます。



祭典を斎行して

大祓・茅の輪

宮前八幡神社

宮司 小山 利行

甲府市宮前町鎮座、元甲斐国総社である八幡神社で去る六月三十日、水無月夏越の大祓が斎行された。前日に神職総代三十五名の手に依り、茅の輪設営、注連縄、幟立等の準備が暑さの中行われた。水無月は「水の月」の意味で梅雨時を迎える意味がある。当日夕刻夏越の大祓の神事が斎行された後、参拝者が夫々茅の輪をくぐり、梅雨時の健康と息災を祈っていた。又参拝者は家毎に配布された夏越の祓の人形に「ケガレ」や患の部分を書きし神前に納め神職の祓を受けていた。八幡神社では、参拝者一人一人を祓う特別な形での祓が行われている為多くの参拝者が長い列をなしていた。又神賑行事として地元新紺屋

地区の有志で結成されている武田明神太鼓の演奏が神楽殿にて行われ十二名の手に依る勇壮な響きが境内に鳴り渡り、参拝者も聴き入っていた。

後刻各参拝者の納めた人形袋は、神職の手で一枚毎に清め、人形を一枚一枚お焼上げをし、氏子区域の各家庭の今年後半の無病息災を祈り夏越の大祓の神事は無事終了となった。



甘酒祭

大嶽山那賀都神社

宮司 日原 盛幸

暑さの最も厳しい七月十八日拝殿で甘酒祭が斎行された。

近年は時代の流れもあってか昔の様な賑わいは無く、参拝者は今年も少なかった。

昭和六十年頃までは、二合程の空瓶を持参し「大嶽山の甘酒は無病息災の妙薬」とばかりに家族の為に時間を割いて受けに来る参拝者で賑わっていた。

江戸時代に遡るが、此の甘酒は、真夏の山野を駆け巡り行ずる修験者の精進食として重宝がられていた。疲れ切った体には良く効いた事だろう。そうした体感からか「当社の甘酒は特に御利益が高い」との評判が出る事となった。それに医者も麹甘酒を「飲む点滴」と推奨する程だから効いていたのは確かだ。又、米の収穫量が少ない此の時代の甘酒は貴重で贅沢な存在であった。

ところが今の時代は何時でも簡単に入手でき珍しくも無い。それにサプリメントも市場に氾濫して「撤下神饌の甘酒」と云

っても魅力を感じてくれない。加えて当社は地理的条件が悪く、今も参拝者は駐車場から神社まで一キロの参道(山道)を歩かなければならず、高齢者なら誰もが二の足を踏む。

甘酒は祭りの前日に醸すのだが、標高が高いため夏でも気温が足りず造るのに苦勞する。電気釜と云う便利な方法もあるが神饌故に御櫃で熟成させる。砂糖は一切使用していないが驚くほど甘くなる。まさに妙薬だ。参拝者の減少には、時代の流れや価値観の変化も有るだろうが、偏に怠慢に因るものと反省している。



支部総会報告

峡南支部総代会総会

日時 五月七日(日) 午後一時

場所 三珠総合福祉センター

東八代支部総会

日時 五月二十日(土) 午後二時

場所 浅間神社

峡北支部総代会通常総会

日時 五月三十一日(水) 午後三時

場所 魚光会館

峡中神社総代会並びに

山梨県神社庁峡中支部総会

日時 六月二十三日(金) 午前十時三十分

場所 櫛形生涯学習センター

甲府支部神職総代会合同総会

日時 七月十三日(木) 午後一時

場所 ベルクラシック甲府

各総会には根津庁長、中込総代会長が出席しました

今後開催予定の支部総会

北都留支部総代会総会

日時 七月二十七日(木) 午後一時

場所 大月市民会館

東山梨支部総会

日時 八月下旬(予定)

場所 山梨市民会館(予定)

南都留神社関係者大会

日時 十一月二日(木)

場所 ハイランドリゾートホテル&スパ

祭典日程

7・22 新屋連神社夏祭り宵祭

7・23 新屋連神社夏祭り

7・28 河口浅間神社太々御神楽祭

7・30 甲斐市篠原八幡神社茅の輪祭 葦崎市若宮八幡宮例祭(三十一日)

7・31 柴宮神社みそぎ祭 甲府市千塚八幡神社みそぎ祭 甲斐市中下条松尾神社みそぎ祭 北杜市長坂町建岡神社夏越祭 御崎神社みそぎ祭

8・6 大明見小室浅間神社高座神社祭 大嶽山那賀都神社大祓

8・8 忍草浅間神社忍野八海祭

8・15 山梨縣護國神社戦没者追悼式 大月市畑倉春日神社例祭

8・17 富士山小御嶽神社例祭

8・19 昭和町西条義清神社源義清公慰霊祭

8・20 石和八幡宮撰社祭(二十日祭) 南アルプス市飯野若宮神社灯笼祭 南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮三社合同祭

8・26 北口本宮富士浅間神社鎮火祭(二十七)

8・27 富士河口湖町白山神社例大祭

9・1 都留市生田神社例大祭・八朔祭

9・2 大月市鳥沢福地八幡神社例大祭

9・3 甲府市東光寺山八幡神社例祭 大月市初狩町八幡神社春秋例大祭 大月市猿橋町三嶋神社例大祭

9・9 勝山富士御室浅間神社秋季例大祭(神幸祭)

9・10 甲府市宮前町八幡神社例大祭 南ア

ルプス市藤田八幡社秋祭

9・15 甲府市飯田八幡社秋季例祭 富士吉田市上暮地神明社秋祭 忍野村内野浅間神社八幡社例祭

9・17 甲府市宮原町宇波刀神社秋季例祭

9・18 上野原一宮神社例大祭

9・18 都留市田野倉三嶋神社例祭 船津八王子神社例大祭(神幸ノ儀) 船津筒口神社例大祭(神幸ノ儀)

9・19 下吉田小室浅間神社流籠馬祭 下吉田小室浅間神社例大祭(流籠馬祭り)

9・22 忍草浅間神社社諏訪神社例祭・秋大祭(二十日)

9・23 山縣神社前夜祭

9・23 山縣神社例大祭・第3式学問祭 甲府市愛宕神社秋季皇霊祭 一宮町橋立甲斐奈神社秋季例祭 北杜市白州町若宮八幡神社例祭 大明見小室浅間神社護國神社招魂祭(戦没者慰霊祭) 大月市駒橋三嶋神社秋季例大祭 北杜市高根町建部神社例祭・戦没者慰霊祭

10・2 北杜市高根町長沢船形神社秋の例祭

10・4 北杜市長坂町大井ヶ森諏訪神社秋祭 玉諸神社秋葉神社祭

10・5 山梨縣護國神社秋季例大祭 北杜市小淵沢北野天神社例大祭

10・7 甲州市勝沼町雀宮神社例大祭

10・8 甲州市塩山熊野神社例大祭 葦崎市穴山町御名方神社秋季例祭 富士川町鯉沢八幡神社例祭 身延町一宮賀茂神社例祭(九日) 身延町西嶋若宮八幡神社例大祭(九日)

10・9 八代町北南北八代熊野神社秋季例祭

10・10 山梨市三ヶ所諏訪神社秋季例大祭

10・10 葦崎市藤井町福地八幡神社秋季例祭

10・10 葦崎市穴山町諏訪神社秋の例祭 北杜市大泉町逸見神社秋祭

10・14 山梨市牧丘町菅神社秋例大祭 葦崎市勝手神社秋祭

10・15 酒折宮例大祭(宵宮) 塩山竹森玉諸神社例祭 葦崎市穴山町穂見神社秋季例祭

10・15 上於菅田天神社例大祭 穴切大神社秋季例大祭 石和八幡宮秋季例大祭 酒折宮例大祭 甲府市国母船形神社例祭 山梨市下栗原大宮五所大神秋季大祭 山梨市正徳寺唐土神社秋例大祭 山梨市大工天神社例祭 石和町佐久神社例大祭 石和町川中島比枝神社秋季例祭 下部熊野大神社秋季例大祭 甲斐市富竹新田神明神社例祭 甲斐市西八幡八幡大神社例祭 甲斐市長塚神社秋季例大祭 南アルプス市百々諏訪神社秋季例祭 南アルプス市笠原神社秋例大祭

10・17 甲斐一宮浅間神社秋季大祭 柴宮神社例祭 甲府市千塚八幡神社例大祭 一宮中尾中尾神社例祭 西之木八幡宮秋季例祭 富士吉田市諏訪内山神社例大祭 新屋山神社例大祭・奥宮祭 船津八王子神社参籠祭 船津筒口神社参籠祭

10・19 桐原軍刀利神社秋祭 忍野村内野浅間神社天狗社例祭 富士河口湖町白山神社紅葉祭

「第17回神社関係者囲碁大会」

神社関係者の親睦を深め、併せて青少年の健全育成を図る目的を以って囲碁大会を開催致します。

- 主催 山梨県神社庁
 - 主管 山梨県教育関係神職協議会
 - 日時 平成29年 8月 8日 (火) 午前 8時30分～
 - 会場 山梨県神社庁 (甲府市岩窪町572)
 - 参加資格
 - 一般の部 神職・総代・氏子崇敬者
 - 青少年の部 小中学生 (各部門10名程度)
 - 参加費 一般の部 一団体に付き 5,000円
 - 申込期日 7月31日 (月) まで
 - 申込先 山梨県神社庁
 - 電話 055-288-0003
 - FAX 055-288-0005
- ※問い合わせ先 小佐野文男 080-5410-2303

「山梨県神社庁顧問参与会」

神職身分二級以上の神職で構成されております神社庁顧問・参与会第二十五回例会を下記により開催致します。

- 記
- 一、日時 平成29年 9月28日 (木曜・仏滅) 午後三時
 - 二、場所 ホテル談露館

「神宮大麻暦頒布始祭」

神職身分二級以上の神職で構成されております神社庁顧問・参与会第二十五回例会を下記により開催致します。

- 記
- 一、日時 平成29年10月24日 (火曜・先勝) 午後一時
 - 二、場所 コラニー文化ホール

「全国神社総代会大会」

全国神社総代会大会が左記の日程により開催されます。本大会は、全国各県の総代が一同に会して、総代としての意識の高揚、情報の交換を通して、神社界の更なる発展を図ろうとするものです。今年はいはま県での開催です。山梨県では日帰りとい泊二日の二種類の研修旅行を計画しております。

- 記
- 一、大会日時 平成29年 9月 6日 (水)
 - 一、会場 ソニックシティホール (さいたま市大宮区桜木町 1-7-5)
 - 一、研修旅行
 - 宿泊 平成29年 9月 6日 (水)～7日 (木)
 - 筑波山ホテル青木屋 (筑波山温泉)
 - 日帰り 平成29年 9月 6日 (水)
 - 一、旅行費用 宿泊 30,000円
日帰り 10,000円
 - 一、申込締切 平成29年 7月31日 (月)
 - 一、申込先 山梨県神社庁
 - 電話 055-288-0003
 - FAX 055-288-0005

今 後 の 予 定

「山梨県神社関係者大会」

平成29年度神社関係者大会を下記の日程、要項で開催致します。混迷する時局に鑑み神職総代共相に神社神道の昂揚に邁進し、以て地域の平安・活性化と国の隆昌に寄与致したいと存じます。何卒万障御差繰り御参会下さいますよう御案内申し上げます。

- 記
- 一、日時 平成29年10月24日 (火曜・先勝) 午後 1時
 - 二、場所 コラニー文化ホール (山梨県立県民文化ホール) 大ホール
 - 三、内容 第一部 神宮大麻暦頒布始祭
第二部 式典

「全国敬神婦人大会参加旅行」

全国敬神婦人大会が左記の日程、要項で開催されます。本大会は、全国各県の敬神婦人連合会が一同に会して、意識の高揚、情報の交換を通して、神社界の更なる発展を図ろうとするものです。

- 記
- 一、日時 平成29年 9月26日 (火)
 - 一、場所 静岡県 (大会会場静岡文化会館)
 - 一、参加費 16,000円
 - 一、申込先 山梨県神社庁
 - 電話 055-288-0003
 - FAX 055-288-0005
 - 一、申込締切 平成29年 8月末日

「新穀感謝祭」

我が国の御親神、心のふるさとと仰ぐ「お伊勢様」。その限りない御神恩に感謝の真心を捧げ、「瑞穂の国」と称えられた我が国柄への思いを新たにす新穀感謝祭を今年も下記の通り実施致します。

ご近所の方、ご友人などお誘いの上御参加下さい。

- 記
- 一、日時 平成29年11月16日 (木)・17日 (金) (一泊二日)
 - 二、神宮では御垣内にて特別参拝、神楽殿での御神楽の奉奏が執り行われ、参拝記念が撤下されます。
 - 三、宿泊ホテル、行程、参加費は支部によって異なります。支部役員・神社宮司にお尋ね下さい。